

科目名	経営分析論			
開講学期	2年次春学期			
教員氏名（カナ）	原 郁代（ハラ イクヨ）			
単位数	2			
授業実施方法	対面授業			
教育の実務経験の有無	有	ノートPCの利用	毎回の授業で使用	
実務経験	監査法人で公認会計士として会計監査業務に携わってきました。			
キーワード	収益性分析 安全性分析 効率性分析 成長性分析 期間比較 同業他社比較	アクティブラーニングの実施	有	
授業の目的と概要	本講義は、①財務データの分析、②分かりやすく説明するプレゼンテーションスキル③ディベートができる能力を身に付けることを目的とする。①については、有価証券報告書に記載されている財務諸表について、収益性、安全性、効率性、成長性などの視点から業種別に分析する。このときに、業種ごとに公表されている財務指標との比較検討を行う。②については、①の結果をPowerPoint資料にまとめ、マイクを持って人前で話す報告会を実施する。③については、大学院生同士でディベートをするだけでなく、企業経営者をお招きしてともにディベートを行う。			
到達目標	1	収益性、安全性、効率性、成長性などの視点から経営分析をすることができる。		
	A+	収益性、安全性、効率性、成長性などの視点から適切に経営分析をすることができる。		
	A	収益性、安全性、効率性の視点から適切に経営分析をすることができる。		
	B	収益性、安全性、効率性の視点から、ある程度経営分析をすることができる。		
	C	収益性、安全性、効率性の視点から行った一部の経営分析が不十分である。		
	F	経営分析をどの視点からも行うことができない。		
	2	経営分析の結果を相手に説明することができる。		
	A+	経営分析の結果を完璧説明できる。		
	A	経営分析の結果を説明できる。		
	B	経営分析の結果をある程度説明できる。		
	C	経営分析の結果の説明が不正確なことがある。		
	F	経営分析の結果の説明ができない。		
	3	経営分析の結果についてディベートをすることができる。		
	A+	経営分析の結果についてディベートを完璧に行うことができる。		
	A	経営分析の結果についてディベートを行うことができる。		
	B	経営分析の結果についてディベートをある程度行うことができる。		
	C	経営分析の結果について一部のディベートを行うことができない。		
	F	経営分析の結果についてのディベートを行うことができない。		
	4			
	A+			
	A			
	B			
	C			
	F			
	5			
	A+			
	A			
	B			
	C			
	F			
履修上の注意	①質疑応答ができるように、分析対象企業の財務諸表を分析してから授業に臨むこと。②自分の			
教科書・教材				
基本方針	特定の教材は使用しません。			
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
必須				

推薦	桜井久勝/財務諸表分析 第8版	中央経済社	2020年3月	
	黒木正人/決算書の読み方と業種別のポイント	ビジネス教育出版社	2023年2月	
参考文献				
ディプロマポリシーに掲げる能力と授業の対応				
ディプロマポリシー（大分類）				対応
D1	社会・企業・組織が持つ経営上の課題、社会的課題を見出す能力			○
D2	課題解決に役立つデータサイエンスに関する汎用的な知識とスキル			
D3	(1) の能力を起点に (2) を重ね合わせ、社会・企業・組織が持つ経営上の課題、社会的課題を具体的に解決し得る方策を導き出す能力・スキル			◎
D4	(3) で得られたソリューション（解決策）を社会等に訴求すべく具体的に働きかけるコミュニケーション力と行動力を備えたスキル			○
D5	データ社会にあって (1) ～ (4) の一連のプロセスで発生し得る倫理上の課題を適切に認識する能力を備えたスキル			
成績評価方法		報告会の報告内容によって評価する（中間報告会40%、最終報告会60%）。		
試験・レポート等に対するフィードバック		授業内でフィードバックする。		
授業時間外の事前事後学修				
	内容			学習時間
事前学習	分析対象企業の財務分析をする。発表の準備をする。			2.5 h
事後学修	授業でのフィードバックをまとめる。			2 h
授業計画				
1	分析方法、PowerPoint資料の形式、発表の割り当てを行う。			
2	会計情報の特性について、事前に提示した論点を中心にディスカッションを行う。			
3	会計基準や経済の変化が財務諸表に与えるインパクトについて、事前に提示した論点を中心にディスカッションを行う。			
4	経営分析の視点と発表の方法について、事例を交えて解説を行う。第5講・第6講の発表者が発表準備へのイメージを持てるように質疑応答を行う。			
5	業種1について発表を行う。発表についてのコメントと質疑応答を行う。			
6	業種2について発表を行う。発表についてのコメントと質疑応答を行う。			
7	中間報告会 コメント内容を踏まえてブラッシュアップした資料を基に、企業経営者の前で発表を行う。企業経営者とディベートを行う。			
8	中間報告会の振り返りを行う。第2回目の発表へ向けて具体的にどこを改善すべきかイメージできるようにディスカッションを行う。			
9	会計情報によって可視化されることが難しい無形資産の価値について考える。有価証券報告書を素材として研究開発費と広告宣伝費の効果についてディスカッションを行う。			
10	会計情報によって可視化されることが難しい無形資産の価値について考える。有価証券報告書を素材として人的資本の可視化について考える。			
11	業種1について同業他社分析を実施する。発表についてのコメントと質疑応答を行う。			
12	業種2について同業他社分析を実施する。発表についてのコメントと質疑応答を行う。			
13	各報告者がリハーサルを行う。発表内容についてコメントと質疑応答を行う。			
14	最終報告会 経営者の前で発表を行うとともにディベートを実施する。			
SDGsとの関連性				
8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基礎をつくろう				